



# 中筋小学校だより

校訓～強い身體 正しい心～



舞鶴市立中筋小学校  
学校だより 8・9月号  
令和7年8月28日発行  
<http://nakasujii.maizuru.edumap.jp/>  
☎ 75-0372

学校HP



## 鬼の優しさ



今年の夏休みも猛烈な暑さが続きました。京都市では猛暑日と熱帯夜を記録する日がそれぞれ40日を超える、昨年の大谷選手ならぬ40-40(フォーティーフォーティ)を記録したと笑えぬ記事が新聞に掲載されていました。「鬼のような暑さ」と形容したくなる夏でしたが、中筋っ子は、元気な姿で始業式に集いました。

2学期スタートから題名に「鬼」?なんてと思われたかもしれません、子どもたちにとっては「鬼」は大人気です。そう、「鬼滅の刃」です。この夏休みに映画が公開されてお子さまとご覧になられた方も多いかもしれません。なんでも、公開25日間で、観客動員1569万8202人、興行収入220億7219万1500円を記録。国内の歴代興行収入ランキングでは6位となったそうです。「鬼滅の刃」だけではなく、子どもたちにとって桃太郎の鬼退治や節分の鬼など意外に「鬼」は近い存在かもしれません。

近い存在であっても、鬼と言えば、どうしても恐ろしいイメージですが、鬼と呼ばれた人物の優しさについて考えさせられました。「鬼の平蔵」と呼ばれた長谷川平蔵宣以がその人です。江戸時代、天明～寛政期にかけて、火付盗賊改方(今で言えば警視庁長官でしょうか)として活躍しました。池波正太郎の小説「鬼平犯科帳」のモデルであり、その後、時代劇にもなった人と言えば、なじみがあるでしょうか。この「鬼の平蔵」ですが、当時、関東一円に勢力を広げていた盗賊団を一網打尽にしたり、江戸中を荒らしまわった大盗賊を捕まえたりと、史実として大きな功績を残しています。犯罪組織を徹底的に追い詰め、そして最終的に捕らえ、罪を償わせる見事な活躍ぶりで、その名を天下にとどろかせることになります。その姿に世の人は喝采をあげ、「鬼の平蔵」との異名がついたのでしょう。

しかし、「鬼の平蔵」にも頭を悩ませる問題がありました。それは、「無宿」と呼ばれる人々の存在でした。安永年間から、冷害や悪天候により農作物の収穫が減少していたところ、天明年間に入り、冬にも関わらず、異様に暖かい日が続き、さらには浅間山が大噴火を起こします。噴火による火山灰は日照を遮り、農作物に壊滅的な被害が生じます。世の中は深刻な飢饉状態に陥りました。「天明の大飢饉」です。農作物を栽培できない地方の農民たちが江戸に仕事を求めてやってきますが、満足に職に就けず、町々に溢れました。これが「無宿」と呼ばれる人たちで食うに困った「無宿」たちは、次々に犯罪行為に手を染めていくのです。

この「無宿」対策は、当時の切実な社会問題でした。世の中の安定を保たなければ江戸幕府体制も揺らぎかねません。「鬼の平蔵」のことですから、徹底的に取り締まるのかと思いきや、彼は、江戸湾近くの石川島に収容所を設け、「無宿」や刑期を終えた浮浪人などに大工、建具、塗物などの技術を修得させます。手に職をつけて、仕事ができれば犯罪も減るだろうと考えたのです。「懲らしめ」から「立ち直り」へという意識が江戸という時代の中にすでに存在していたことに大いに驚きました。

知識や技術を身に付けさせて、社会的な自立を図ると言うのは、教育の目的にも適うところです。さらに平蔵は「悪党にても人にて御座候」とも言っています。まさに罪を憎んで人を憎まずで、人としての姿を尊重する彼の姿勢に、人間への温かい眼差しを感じます。一度の失敗や過ちで過剰に「懲らしめ」るのではなく、「立ち直り」を期待して寛容に受け止め、支援の手を差し伸べる、そんな「鬼の優しさ」とも言える平蔵の姿に、我々も大いに学び、受け止める寛容さを備え、成長を期待する温もりある教育活動を進めたいと考えます。

2学期も子どもたちの可能性を信じ、進んで関わり、寛容に受け止め、子どもたちのみならず保護者、地域の皆様も含めて互いのつながりの絆をさらに太いものにしていければと考えます。今学期も引き続き、保護者、地域の皆様の温かく力強いご支援、ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

校長 福井 博教 教職員一同